



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



参加者に感謝をこめて全員で記念写真

御嶽山登山道の清掃と修繕に汗

「山の日」制定を記念してPRも兼ねて作業

主な項目

- 「木曾悠久の森」管理委員会の開催 P2
- 「山の日」制定記念ページ..... P5
- 各地からのたより P6
- シリーズ「森林官からの便り」 P9
- シリーズ「ご当地自慢」 P10

「木曽悠久の森」管理委員会の開催

【計画課】中部森林管理局では、世界的に極めて貴重な木曽地方のヒノキ等の温帯性針葉樹林の保存・復元を目指し、平成二十六年四月に、それらがまとまって分布するエリアを「木曽悠久の森」(二六、五七九㌔)として設定しました。

木曽悠久の森管理委員会は、「木曽悠久の森」の保存・復元を適切に取り組んでいくため、学識経験者等十六名で構成されています。

七月十二日、木曽森林管理署で開催された委員会では、下部組織である植生管理専門部会、森林資源利用専門部会、森



「木曽悠久の森」管理委員会の模様

林総合利用・地域振興専門部会の各座長等から、現在の検討状況の報告がありました。

これらの報告に対し、「人工林の天然林化には、復元しようとする森林の目標林型をまず定める必要がある」、「重要文化財の屋根材として、サワラの大径人工林材の生産に取り組む必要がある」、「木曽ヒノキ美林とともに生活してきた地元住民の想いを理解して、森林の取り扱いを検討されたい」などの意見が出されました。

また、「木曽悠久の森」内で観光客等へ危険を及ぼすおそれのある樹木の取り扱いについても議論され「どのような場合に危険木の搬出が想定されるのか」、「伐採に伴う支障木も危険木に含めるのか」などについて議論が行われ、今後の危険木の取り扱いが了承されました。

原木流通の問題「点出される」

地区需給情報連絡協議会を開催

「名古屋事務所」「国産材の安定供給体制の構築に向けた中部地区需給情報連絡協議会」の今年度第一回目の会合が七月十四日、名古屋駅前の愛知県産業労働センター・ウイंकあいちで開催されました。同協議会には中部森林管理局、中部地区の行政関係者(長野・岐阜・愛知・富山・石川・福井県の六県)、森林組合、県木連、木材業者、木質建材メーカー、製紙工場、原木流通関係者及び学識経験

者で構成されています。

冒頭挨拶で林野庁木材産業課長より「現在、我が国の木材需要は住宅分野が主なシェアを占めており、CLT(直交集成材)をはじめとしたエンジニアードウッドを中心とした中・大規模建築への広がり、FIT創設に伴う、地域需要の増大など需要については構造変化が起きていると思っています。国産材の安定供給を進めていく上で川上・川中・川下が相互に理解していただきWINWINの関係を構築することが大切である。そのためにはこうした協議会を通じて情報共有する必要がある」と挨拶がありました。



林野庁 小島木材産業課長の挨拶

その後、行政関係者からの説明・報告を受けた後、参加者による報告の形式で議事が進行されました。報告から、各



地区需給情報連絡協議会の様子

県・森林組合関係者からは「原木の生産に関しては皆伐・再造林に取り組んでいる。ただ、再造林にはコストがかかり、補助金が交付されても山主にはまったく収入がない」、市場関係者からは「市は全体的に模様眺め。ヒノキ六段の長木が売れない。六十年生以下の木では山元に還元できない」、合板関係者からは「チップ用丸太の集荷が木質バイオマス発電稼働の関係で調達は非常に困難。木質バイオマス発電を優先する傾向は林業にとって良いことではない」、苗木生産者からは「どれだけの再造林があるのか見えないと生産持続は難しい」など川上・川下の意見が出されました。

こうした報告を受けて、座長の植木達人信州大学農学部教授は、現状の原木流通の問題点として①山元への還元がなければ循環的な木材生産はあり得ない、②

労働力不足、③皆伐造林（苗木生産・植林問題）、④大径材の扱い、⑤中小製材工場の立場をどのように見せていくか、⑥外材需要（川上と川下のせめぎ合い）などの問題点が浮かび上がったとし、次回合ではこれらの課題について議論をする時間を設けると提案しました。

本協議会の冒頭に中部森林管理局次長からの問題提起もあり、持場立場から活発な意見が出された協議会でしたが、回を重ねる毎により一層の情報共有の場となることが期待されています。

第五十五回

高山植物等保護対策協議会総会を開催

【保全課】七月十四日、中部森林管理局大会議室において、長野県内の国有林並びに民有林における高山植物等の保護と地域内の美化を図り、将来にわたり国民の福祉に寄与することを目的とする「高山植物等保護対策協議会」の第五十五回総会が、長野県環境部自然保護課長をはじめ、環境省、警察本部、教育委員会等行政機関、山岳・観光関係団体、五地区の協議会長等、総数計二十八名の出席のもと、開催されました。

「平成二十七年事業活動報告」においては、お花の摘み取りや立入禁止区域への進入など八百五件の指導が行われたことが報告され、中には、立入禁止用の「グリーンロープ」が切断されたような跡があったという悪質な事例もありま

した。「グリーンロープ」は高山植物等の保護活動を進めていく上で不可欠であり、古いグリーンロープは張替えるなど対策に取り組んでいます。

「平成二十八年事業計画」では、野生獣による高山植物の被害が各地で見られることから、保護パトロール中における目撃情報を収集し関係機関と共有するなど高山植物の食害対策を充実することや、八月十一日が、国民の祝日「山の日」に制定されたことを踏まえ、登山者の多い七月十五日から八月十四日までの「信州山の月間」中にパトロールを強化すること、パトロールの際は、気象情報や火山情報等を含む最新の情報を把握した上で実施することなどが、総会で承認されました。



「高山植物等保護対策協議会」総会の模様

参加された会員からは、地区協議会のパトロールに参加したいので、実施の際は、地区協議会から情報をいただきたいなどの積極的な意見も出され、関心の高さを再認識しました。

また、行政機関の取組として、環境省長野自然環境事務所より「国立公園内における野生生物の保護管理等について」、長野県自然保護課より「『みんなで信州の山岳を守ろう！キャンペーン』について」、中部森林管理局より「平成二十八年中部森林管理局における獣害対策の取組」が報告されました。

中部地方整備局との連携！

岐阜森林管理署庁舎施設見学会を開催

【名古屋事務所・岐阜署】中部森林管理局名古屋事務所は、中部地方整備局の依頼により、七月二十七日、「岐阜森林管理署庁舎に係る施設見学会」を開催しました。

この見学会は三年越しで実現したもので、平成二十六年台風八号による南木曽土石流災害、同年九月御嶽山噴火、伊勢志摩サミット準備など様々な事由で行事が延期となっていたもので、名古屋事務所は公共建築物等の木材利用促進に係る連携として、二十六年より中部地方整備局と各種会議への連携・資料提供、当所主催行事への参加などを行っており、今回の見学会もその連携の一つとなります。

今回の見学会には中部地方整備局から十五名が参加され、当局からは庁舎管理者である岐阜森林管理署及び局、名古屋事務所と施工業者の金子工業(株)の担当者が対応しました。

冒頭、藤村岐阜森林管理署長から「二〇二〇東京オリンピックで、木造の大型スタジアム、新しい木質材料としてCLTの開発など以前に比べて木材が使いやすくなっていると感じている。本日の見学会を通じて、大型の木造構造物建築に関する理解が進むことを願っています。」と挨拶をいただき、中部地方整備局の小野寺宮緒調査官から「整備局も木造化については本格的な庁舎の実績はまだまだ無い状況で、建築や管理をされている方々から、生の声や現地見学する中で気づいたことを持ち帰らせていただき、今後に生かしてゆきたいと思っています。」と代表挨拶がありました。



藤村岐阜森林管理署長の挨拶

この見学会ではあらかじめ、入札公告・入札説明書等の資料や事前の質問と回答などの情報提供を行った上で開催しました。

施工者の金子工業から「年内の降雪前に屋根を伏せ、養生を十分行った。木材使用にあたっては含水率に気をつけた。県産材・地域内での製材加工。水回りには凍結対策を行った。結露がほとんど無いのが木造建築の良いところ」など留意した点等について補足説明を受けた後、見学者から質問等を受けました。



岐阜森林管理署内の見学風景

見学者からは「当時C.L.T.があったら比較検討したか」、「大工不足は無かったか。木材の調達に苦労しなかったか」、「設計から工事完成まで1年と短く、工夫した点は」等予想以上の質問に公共建築物の木造建築に対する関心の深さを感じました。

じました。次に庁舎内の見学に入ると営繕部の専門家ということもあり、庁舎内の天井、車庫や軒の構造等に関心を寄せるなど木造建築構造を詳細に見入っていました。見学会の終わりに「今回の庁舎見学は大変、勉強になりました。引き続き連携を」などの声も聞かれ、三年越しの見学会が成功裏に終わったことに安堵したところです。

今後とも中部地方整備局と公共建築物等木材利用促進に係る連携をはじめとして、手探りではありますが、色々な形での連携を名古屋事務所として繋げていきたいと思っています。

森林整備の低コスト化に向けた ブロック別研究会を開催

【整備課】 去る七月二十六日、林野庁整備課が主催する「森林整備の低コスト化に向けたブロック別研究会」が、中部森林管理局大会議室において、近接する八県（新潟・富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知）の林務部局、中部森林管理局及び森林整備センター中部整備局から、それぞれ担当者が参加し開催されました。

民有林においては、森林整備の低コスト化に向け、今年度から、「伐採・造林一貫作業システムの導入促進」、「列状間伐の推進」、「間伐等に係る搬出材積に応じた支援内容の見直し」及び「森林作業道整備の効率化」に係る幅広い取組を進

めることとされています。

同研究会は、森林整備の低コスト化に向けた取組を全国的に進めていくため、国有林の先進事例を情報提供するとともに、各都道府県から先進事例やアイデアを発表してこれらを共有し、可能なものは民有林で次年度から導入することとして、今年度初めて開催されたもので



ブロック別研究会の様子

冒頭の森林整備部長及び長野県林務部森林づくり推進課長の挨拶に続き、中部森林管理局から、国有林における森林整備の低コスト化の取組について発表を行いました。

森林整備課長からは、伐採・造林一貫作業システムによる低コスト化の事例と

して、末木枝条をバイオマス利用することによる無地拵及び集材で使用する林業機械の活用による地拵の省力化、フォワーダでのコンテナ苗運搬による植付の省力化のほか、立木利用によるシカ防護柵等について、また、資源活用課長からは、列状間伐の様々な取組事例や二回目間伐における列状間伐の可能性等について発表がありました。

続けて、民有林における取組として、各県から、C材収集作業システム、大規模集約化の加速、コンテナ苗の活用、列状間伐、路網整備、伐採から再造林の一貫作業の推進、他産業と連携した先進的林業経営、集落を単位とした木材生産システム、高性能林業機械損料等の積算、事業体による低コスト施業提案事業、エリートツリーとコンテナ苗の活用、架線系一貫作業システムの検討、直接支援事業の標準単価の見直しとチェックリストの活用等、継続中の取組事例と新規のアイデアが発表されました。

最後に、民国共通の課題である森林整備事業の低コスト化や苗木の需給調整、カラマツ種子の確保、末木枝条のバイオマス利用等について意見交換を行い終了しました。

なお、全国七ブロックで発表された内容については、森林整備事業の低コスト化に向けた取組を全国展開するため、今後、林野庁HPにおいて公開されることとなっています。

「山の日」制定記念ページ

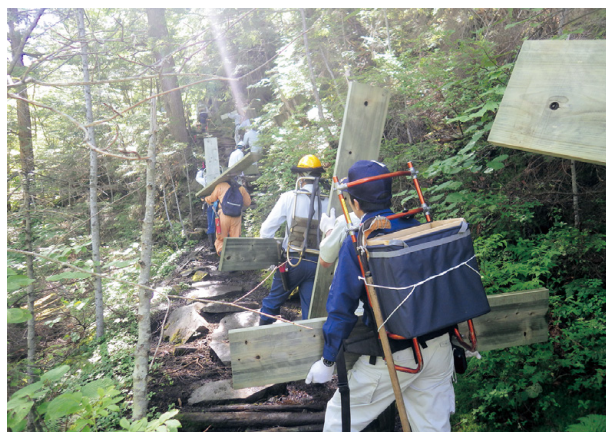
◆御嶽山登山道の清掃と修繕◆

【岐阜署】七月二十日、今年から国民の祝日となる「山の日」の制定を記念し、岐阜森林管理署は下呂市と共催で、下呂市小坂町濁河温泉にある御嶽山登山道の清掃や修繕を行いました。

今回は山の日PRとともに、毎年実施している「国有林ゴミゼロ運動」の一環として企画し、署と下呂市、名古屋造林素材生産事業協会小坂支部、名古屋林業土木協会小坂支部及び山小屋関係者の七十二名が参加し、登山口から約五〇〇メートル先にある吊り橋「仙人橋」までの木道の整備と、腐朽した仙人橋の床板の張り替えや木道の解体撤去作業を行いました。



仙人橋の床板張替作業



人力による材料の運び上げ

一番大変だったのは、床板の材料運びで防腐加工を施した地元産ヒノキで作成した床板一五〇枚を全員で登山道口から人力で運び上げる作業でした。一枚十詰近くある板を二枚担いで何往復も運ぶ強者もいて、参加者全員の協力で作業も順調に進みました。作業内容が、従来のゴミ拾いや清掃といった軽作業とは異なり、工事に近い作業となりましたが、関係団体から多くのプロフェッショナルに参加していただいたおかげで予定した時間内に無事終了することができました。

終了後、登山道を管理する下呂市の関係者からは、夏山シーズンが本格化する前に、多くの人の協力により橋や木道が整備された事に対し感謝の言葉が述べられました。

企画展「山の日」記念

『山岳写真展』を開催！

「名古屋事務所」『山の日』を記念して七月一日～八月十六日の間、「熱田白鳥の歴史館」において「山岳写真展」を開催しました。

この企画展は都市住民へ「山の日」制定趣旨の普及と日本の山（森林）への理解醸成を図ることを目的に企画したもので、写真展では中部森林管理局に勤務する職員が森林パトロールなど日常業務中に撮影した、管内四県（富山、長野、岐阜、愛知）の国有林等の山岳風景や管内に生息する希少な高山帯の動植物等の記録写真を期間展示しました。



山岳写真展示風景



山岳写真展の見学者

展示した写真は、北アルプス（立山、笠ヶ岳、槍ヶ岳など）や、中央アルプス（駒ヶ岳）、南アルプス（仙丈ヶ岳、摩利支天）のほか八ヶ岳、浅間山、白山連峰など管内の主要峰をはじめ、愛知県の段戸山及び原生林、棚山など風光明媚な国有林を含む、五十五枚の山岳風景と、コマクサ、アツモリソウ、ヨツバシオガマなどの高山植物や、ライチョウ、オコジョ、アサギマダラなどの動物達、池や池塘（ちとせ）、名勝の滝など十六枚、合わせて七十作品で、林野庁職員の目線から撮影した写真のため一般の方々には珍しい作品写真展となりました。

期間中の見学者はマスコミ関係者のほ